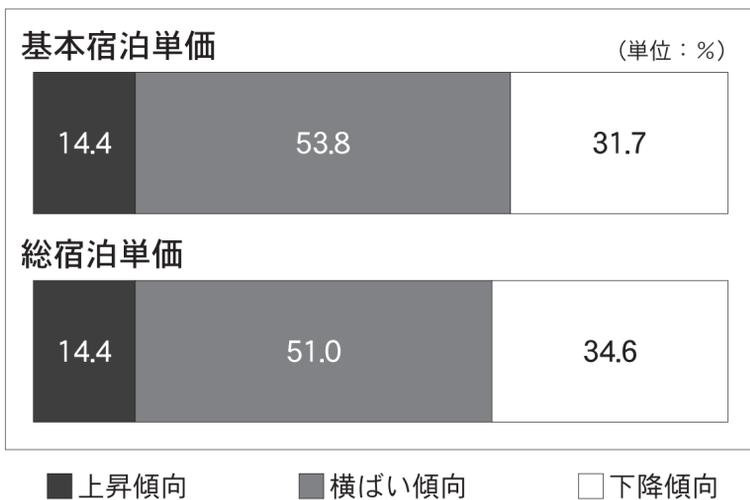


昨夏比で客数低迷、単価上昇も鈍化。秋の見込みも厳しく

リョケン、第81回短観アンケート(8月実施分)

秋の見込み

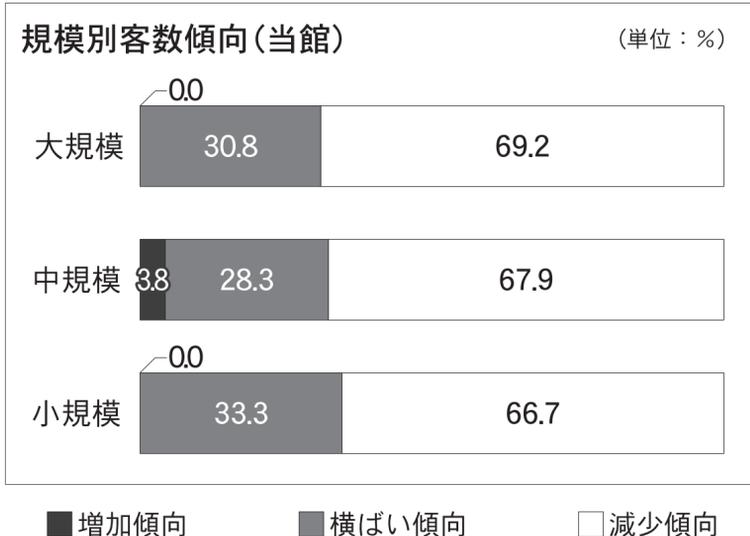
秋(9~11月)の見込みについての回答をまとめた。



●基本宿泊単価、総宿泊単価
基本宿泊単価、総宿泊単価ともに「上昇傾向」との回答は14.4%にとどまり、半数を超える施設が「横ばい」と回答した。
地域別に見ると、北陸・中国で上昇傾向が約5割だったのに対し、近畿では「下降傾向」が66.7%となっている。



●客数傾向
客数傾向(当館)は、「増加傾向」との回答は1.9%とほとんど見られず、約7割の施設が「減少傾向」と回答した。地域別でも大きな差異はなく、全国的に客数の回復に対して非常に強い不安感がうかがえる。



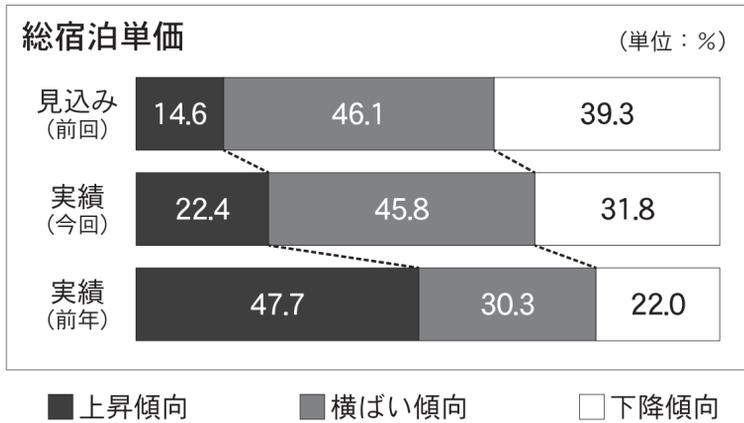
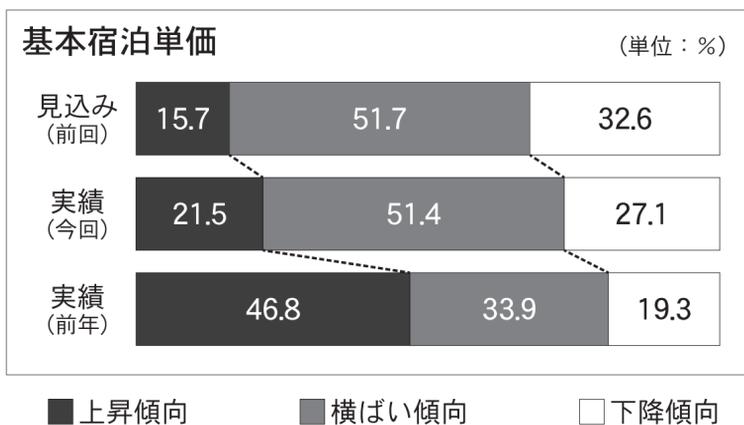
●規模別の客数傾向
規模別の客数傾向(当館)では、中規模施設で「増加傾向」との回答がわずかにあったのみで、規模別での大きな差異は見られなかった。

コメントから見える全体的な傾向

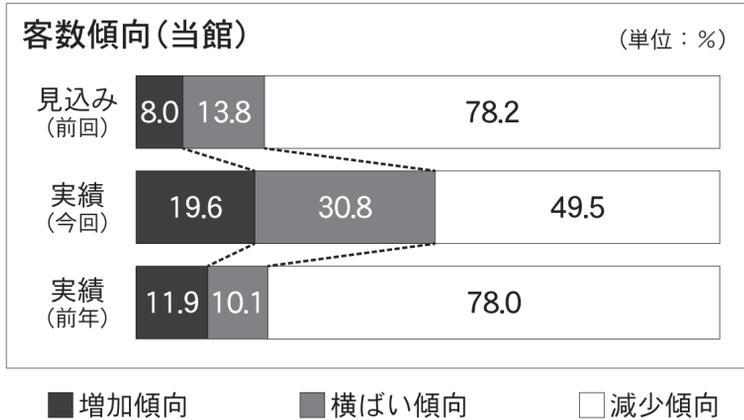
調査期間中も新型コロナウイルスの感染拡大が衰えを見せることなく、9月にかけての緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が多くの都道府県に及ぼしている影響が非常に大きいことがうかがえる。
ワクチン接種の進行や修旅などの一部団体利用に期待するコメントも見られるが、それ以上に、夏よりも秋の見込みが厳しいとの認識がうかがえた。感染状況や政府の施策に左右され、先行きの不透明感が非常に強いことが、多くのコメントから見て取れる。

夏休みの実績

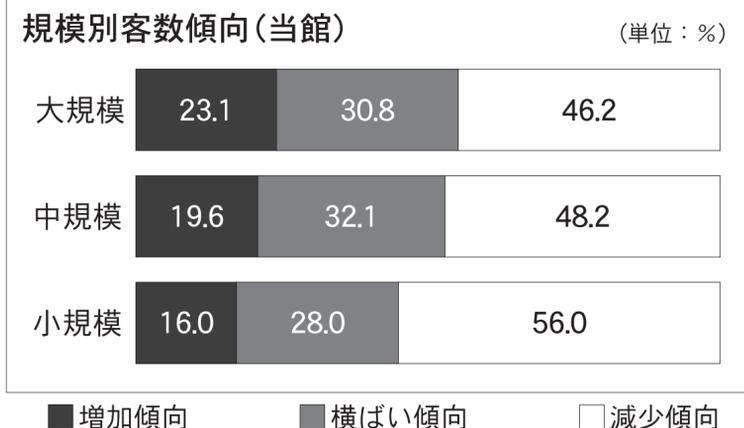
夏休み(7月下旬から8月)の実績についての回答をまとめた。今回の調査結果を、前回調査(5月25日から6月10日実施、以下同)の「見込み」、前年調査と比較している。



●基本宿泊単価、総宿泊単価
基本宿泊単価、総宿泊単価ともに、前回調査時の見込みを若干上回っているものの、「上昇傾向」と回答した施設は約2割にとどまっている。
地域別では、北陸・中国で上昇傾向との回答が5割を超えたが、その他の地域は2割前後となっている。



●客数傾向
客数傾向は、前回調査で「増加傾向」の見込みが8.0%であったのに対し、実績では19.6%と上回ったが、「減少傾向」と回答した施設が約5割にのぼった。前年同時期の実績比では好転しているものの、入り込みの低迷は依然深刻な状況といえる。



●規模別の客数傾向
規模別の客数傾向(当館)では、規模の大きい施設では「増加傾向」との回答が多いが、大きな差は見られず、いずれの規模でも入り込み状況には、施設ごとにはばらつきが見られるようだ。

コメントから見える全体的な傾向

従来を大きく上回る感染再拡大が夏休み期間に重なる事態となり、非常に厳しいコメントが多く寄せられた。前年同時期にはGo To Travelキャンペーンの効果があったのに対し、今年は集客もままならず、単価の上昇も鈍化していることがうかがえる。
緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出、都道府県ごとの支援キャンペーンの実施と停止などにより、業績を左右されているとの回答が多く見られた。

先行き不透明感が顕著に
コンサルタントのリョケンは、「旅行」を含む全国の旅館・ホテルを対象に行っている「リョケン短観アンケート」の第81回アンケート(8月実施分)の結果を発表した。Go To Travelキャンペーンが始まった昨夏と比べ、今夏は客数が低迷し、単価上昇も鈍化の傾向が見られ、秋の見込みについても先行き不透明感が顕著に表れた。

調査期間は8月2日~17日、回答軒数は107軒。施設規模について、客室数別に小規模は「30室以下」、中規模は「31~100室」、大規模は「100室以上」。